

学校運営協議会 議事録

校名	府立鶴見商業高等学校
校長名	谷口 達之輔

開催日時	令和8年2月25日(水) 16:00～17:00
開催場所	府立鶴見商業高等学校
出席者(委員)	小山 乃里子、瀬村 明彦、中村 薫、稲谷 哲也、金正 敦也、久木 勝三
出席者(学校)	谷口 達之輔(校長)、松岡 健貴(教頭)、石井 大一郎(事務長)
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度学校経営計画及び学校評価等
備考	

議題等(次第順)	
<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度学校経営計画及び学校評価について ○令和8年度学校経営計画及び学校評価について ○本校の様子について ○その他 	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p>○令和7年度学校経営計画及び学校評価について</p> <p>体験入学参加者数の減少について、集計方法の違いもあるが、少子化が進む中で広報活動の重要性は一段と高まっており、引き続き力を入れて取り組む必要がある。</p> <p>来年度の生徒募集数は1クラス減の4クラスとなる。他校でも定員減は見られ、大阪府内では約30校が定数減となっている。商業高校では本校と住吉商業が1クラス減、淀商業とOBFは現状維持である。</p> <p>また、鶴見区の中学校では私立専願の割合が50%を超えており、大阪市内の私立高校では専願で定員を満たす学校も増え、共学校化の流れも広がっている。</p> <p>子どもの数が減少しているため一定の定員削減は避けたいが、学校としては存続を望む声があり、今後も学校の魅力発信をさらに強化していくことが求められる。</p> <p>○令和8年度学校経営計画及び学校評価について</p> <p>定員割れへの対策としては、現在も広報活動の強化に重点を置いており、中学校への出前授業、簿記セミナー、学校説明会の充実などを積極的に実施している。特に、女子生徒によるプレゼンが高評価で、生徒の「生の声」の重要性を再認識した。しかし、抜本的な解決策は見えにくく、SNS活用など、新しいアプローチが必要である。</p> <p>部活動を通じたPRも課題となっており、以前は活動が盛んであったダンス・演劇・軽音なども現在は難しい状況である。部活動指導者や部員の確保も問題で、クラブ加入率は半数以下という現状に加えて、部員がいない部や合同チームで活動している部もある。地域との連携や外部指導者の活用が今後の方向性として挙げられる。</p> <p>Haul-Aプロジェクトでは、日商簿記検定の試験協力や本校簿記部との連携など、できることから取り組んでいく予定である。</p> <p>進路状況としては指定校推薦による進学希望者が多くなっている。</p> <p>進路決定は基本的に2年生で行うが、実際は3年で動き出す場合もある。</p> <p>AIの普及によりホワイトカラーの業務が置き換わる流れもあり、ブルーカラーの価値が再評価されている。建築業界などでは若手不足による技術継承の問題もある。こうした社会の変化を踏まえて、学校の生き残り戦略をしっかりと考えていく必要がある。</p>	

次回の会議日程	
日時	
会場	